



## 広島で学んだこと

十四山中学校 尾崎 稜征

### 【平和記念公園で学んだこと】

僕は、平和記念公園で大きく心に残ったことが二つあります。

一つ目は、原爆ドームです。一つだけ他とは異なる空気を感じた原爆ドーム。僕は、戦争の厳しさや原爆の怖さを改めて考えさせられました。窓ガラスがすべて吹き飛び、コンクリートの壁も7割ほどなくなってしまった中で残っていたものは、ドームの部分と少しの壁でした。そんなに爆風が強いなんて、想像もできませんでした。

二つ目は、「しげるちゃん弁当」です。戦争中は、しげるちゃん弁当のように、栄養価が低く、量も少ない弁当ばかりでした。それほど食べる物に困っていたのかと衝撃を受けました。今では当たり前のように食べているご飯が昔は食べられなかったのだと思うと、今食べられることに感謝をし、食べ物を大切にしようと思いました。

### 【平和記念資料館で学んだこと】

資料館では、戦争についていろいろなことを知りました。戦前から戦後のことまで、いろいろと分かりやすく学ぶことができました。中には、とても残酷な資料や動画もありましたが、そこから得た知識は僕にとって大きかったと思います。

資料館の中で見つけた、戦争で生き残った方たちがよく言っていた言葉、それは「水をくれ」でした。今ではどこにでもある水でも、戦時中は満足に口にできず、雨水を飲もうとする人もいたそうです。

今の生活からは想像のできない戦争ですが、資料を見ることにより、以前よりもずっと戦争のことが分かり、戦争や平和について深く考える良い機会になりました。

### 【まとめ】

僕は、本当に戦争をするのはよくないと思うし、核兵器を使うのはもっとよくないと思います。これからの未来をつくっていくのは僕たちだと思うので、今回の平和学習で学んだり考えたりしたことを実行し、次の世代へ伝えていきたいと思っています。



## 平和と広島

十四山中学校 鈴木 彩乃

### 【平和記念公園】

相生橋という橋が原爆を落とす目標になり、目標のすぐ近くの病院に落ちました。そこからすぐ近くの原爆ドームは崩壊せずに残りました。この原爆ドームによって、戦争の怖さを知ることができました。最後に見た平和の灯がとても印象に残っています。これは、核兵器や戦争が世界中からなくなると、火を消せるのだそうです。この火が早く消えることを願っています。

### 【平和記念資料館】

私は、資料館を見学しているうちに、「もっと戦争のことについて知りたい」と思うようになっていきました。特に、佐々木禎子さんのことや放射線について知りたいと思いました。鶴を千羽折ると病気が治ると聞いた禎子さんは、鶴を千三百羽以上折りましたが、放射線によって発症した白血病は治らず、亡くなってしまいました。

性別や年齢に関係なく、放射線や原爆によって亡くなったたくさんの方がいることを知って、私はとても悲しくなりました。このようなことがもう二度と起きないように、私にも何かできることはないかを考えていきたいです。

### 【被爆ピアノ】

被爆ピアノを初めて見たとき、とてもきれいだと思いました。そして、美しい音色を奏でることができるのを知って、とても驚きました。今回聴いたどの曲からも「生きたい」という気持ちが強く感じられて、心に響きました。

### 【広島研修を終えて】

私は以前と比べて、戦争に対する見方が変わったような気がします。また、戦争についての知識をもっと深める必要があると思うようになりました。戦争は二度としてはいけないということを、戦争を知らない人達に伝えていきたいです。



# 十四山中学校



本校では、校訓「自主・自立」のもと、さまざまな教育活動を行っています。今年度は、「発信」をテーマにし、自分の思いや考えを自分の言葉で表現することを目指しています。その活動の一部を紹介いたします。

## 生徒集会



各クラスの学級委員が学級目標を発表し、込められた思いや、理想のクラスにするためにクラスでどんなことに取り組んでいくかについて、熱く語りました。

2分間の発表時間で、クラス全員で目標を言ったり、紙に書いたものを提示したりと、クラスごとに伝えるための工夫をすることができました。

## 熱中症防止教室



保健委員会による熱中症防止教室では、委員会生徒たちのロールプレイを取り入れた説明を聞いたり、クイズに答えたりしながら、熱中症に対する知識や対策を学びました。

熱中症防止教室の後には、海部南部消防署の方々のご協力のもと、救急救命法講習会を行い、心肺蘇生法やAEDの使用法を学びました。

## 安全学習会



防災学習の一環として、毎年行っています。今回は、災害が起きた際、中学生として地域の人のためにどんなことができるのかをグループで話し合い、発表しました。けがをした方や目の不自由な方など、相手の状況や気持ちを想像しながら、協力できることを考えることができました。